(2)結果

水質階級別調査地点数は、表-2に示すとおり、水質階級が "きれいな水"と判定された地点は 10 地点(27.0%)、"少しきたない水"と判定された地点は 17 地点(46.0%)であった。一方、"きたない水"と判定された地点は 17 地点(17.0%)であった。また、指標生物が採取できず、水質階級判定ができなかった地点も 1 地点(17.0%) かった。

<表-2> 水質階級別調査地点

水質階級	調査 地点数	(%)	
きれいな水	I	10	27. 0
少しきたない水	П	17	46. 0
きたない水	Ш	8	21. 6
大変きたない水	IV	1	2. 7
採取できず	_	1	2. 7
計	37	100	

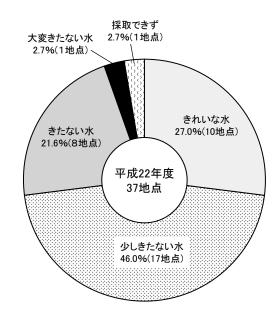


図-2 水質階級別調査地点数の割合

<表-3> の表記例

調 査 団 体 1ページ<表-1>調査団体一覧の団体番号を用いる

生物採取場所 1:川の中心

2:上流から見て右岸

3:上流から見て左岸

流 れ の 速 さ F:速い(毎秒60cm以上)

M:普通 (毎秒 30~60cm)

S:遅い(毎秒30cm以下)

川 底 の 状 態 1:頭大の石が多い 2:こぶし大の石が多い 3:小石と砂

4:コンクリート 5:砂と泥 6:泥

7: コケ 8: その他

指標生物の出現状況 出現状況の欄に○印

ただし、出現した指標生物のうち、最も多かった種類には●印

6. 調査結果一覧 (1)調査結果一覧表

[参考] H21年度 BOD(mg/l) 4.2 2.9 2.7 2.7 1.0 環境基準点の年平均値 環境基準類型 В Ø Ø В В Ø Ω Е ㅁㅡ 昨年度の水質階級の判定日日 Ш П 0 0 8チョウバエ • $\overline{\mathsf{O}}$ 84スジュスリカ 0 • 0 0 0 0 00 234カマキガイ ō 00 O 27 エラミミズ 0 0 00 0 27 アメリカザリガニ O 0 • Ο • 記ミズムシ 0 00000 0 0 0 0 0 2.ミズカマキリ 0 0 00 0 • • $\bullet \bullet \circ \bullet \bullet$ 00000 • • 0 0 • 0 원 고 수 • • 0 0 0 0 0 0 • O O • 0 0 22 ダニツ • 30タイコウチ 0 0 0 ロインコシブイツ 0 0 0 m 66674450 0 О 0 О 00 口ヒラタドロムシ 00 0 0 00 00 0 0 0 協スジェビ • . . . • • 0 00 • 0 はコガタシトトアケロ 0 O 0 1 日内コオニヤンマ 0 00 0 • 0 0 アンジボタイ 0 O 00 21カワニナ 0 0 0 • 0 O 0 00 0 lacktriangle• • lacktrianglelacktriangleロイシマキガイロオオシマトビケラ 0 O 0 Ю 0 • 狟 0 000 のヤマトビケラ 0 • • ∞ヘガトンボ О 0 • 00 • • アブコ 0 000 0 • 0 6 ヒラタカゲロウ 0 $\bullet | \bullet |$ 00 0 0 0 らナガレトビケラ 0 0 O 0 4サワガニ • • 0 0 0 0 lacksquare3カワゲラ • 00 0 0 • 0 0 0 0 2カズムシ $\bullet \bullet \bullet \circ \bullet$ 0 • 0 - K !!! R 水質階級の判定 - 日日 \geq 3,5,72.3 2,3 2,3 3,4 川底の状態 2 2 ∞ 2 2 2 0 0 6 選 Μ Σ $\mathbb{Z} \mathbb{Z} \mathbb{Z}$ S S S F S S ≥ $\mathbb{Z} \otimes \mathbb{Z}$ \mathbb{Z} S M N F $^{\circ}$ S \mathbb{Z} Μ \geq \geq \mathbb{Z} S Z \geq 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 ∞ 30 20 40 30 30 50 40 10 30 15 45 30 10 50 40 30 30 30 20 长 然 (ぃ 日) 2,3 ,2,3 ,2,3 1,2 ε,1 ₩ を 殊 敃 郵 吊 m m 2 2 2 8 3 3 2 က 0 3 3 0 3 20 $^{\circ}$ 20 10 20 \equiv 四(日) 22.0 20.0 22.7 31.6 31.9 32.0 24.0 27.5 31.0 31.2 21.5 22.0 27.0 20.0 24.0 29.0 20.3 24.5 24.5 20.0 28.0 29.0 19.5 24.0 15.0 21.5 28.0 19.0 18.0 24.729.0 长 頭(2) 19. 晴れ 乗り \mathbb{K} 鬞 H22.7.24 .7.24 15 H22.6.22 H22.10.7 H22.10.7 H22.7.24 H22.7.24 H22.8.2 H22.8.2 H22.8.2 H22.7.28 H22.10.7 H22.10.7 H22.10.7 H22.8.18 H22.8.18 H22.9.7 H22.6.15 13 H22.7.26 H22.6.24 H22.8.8 H22.8.8 H22.7.8 H22.6.27 H22.8.2 H22.7.6 H22.7.1 H22.8.8 H22.8.8 H22.7.8 查 靐 # Щ H22. H22. 10 15 16 17 18 19 20 20 20 21 靐 查 F # 梅 2 8 က 5 2 5 5 5 2 9 ∞ 9 0 0 က 2 2 6 10-2 13-2 13-3 15-13-1 5-1 5-2 6-2 7-2 7-3 9-2 [0-1]14-115-22-1 6 - 16-3 9-2 9-9 2-9 8-1 8-3 9-1 1-1 7-1 105 妝 甲 主コミュニティセンター前 -の谷池小幅カマ、大幅川分かれ股、逆井出 豊市財田支所前 光運 津/前自治会館前 三野町大見宮脇 富士見橋下流域 製 新岩崎橋 高専横沈下橋 水道局沈下橋 上流 襲地/ 塩入中橋付近 摺鉢谷川橋 查 型 黑 1□≦ 敋 貝の股(貝温 久保橋下流 悠悠香南前 本津川源流 山田橋付近 柏原渓谷 播付近 橋付近 光 橋付近 榧 鰰 塩江道の駅 石井橋上流 宮武橋上流 琴南中学校 糅 稲積橋付近 与田川下橋 €日川橋] 亀新橋」 新葛谷橋_ 峰山市営 新摺鉢谷J 麻地区西新 中方橋北 山内橋7 城下橋7 奉式 ¥ ||(田 十器川 笠松川 $\equiv \Xi$ 葛谷川 瀬入川 摺鉢谷) 本津川 三田 大東川 河 川 名 金倉) \equiv ※三 奉 ଳ

(2)調査結果一覧(表-3)からの結果

a. 指標生物の出現状況

指標生物の出現頻度および調査地点において最も数が多いと報告された指標生物(優占種)の出現頻度は、表-4のとおりである。

平成22年度に最も多くの地点で出現した指標生物は、ヒルであった。

<表-4> 指標生物の出現頻度及び優占種となった指標生物の出現頻度

水質	Helman at	指標生物の出現	指標生物の出現	階級別出現	優占種となった	優占種になった
階級	指標生物	頻度(回)	割合(%)	割合(%)	頻度(回)	割合(%)
I きれいな水	1 アミカ	0	0.0		0	0.0
	2 ウズムシ	9	3. 7	·	6	8.0
	3 カワゲラ	10	4. 1		2	2. 7
	4 サワガニ	9	3. 7	25. 2	5	6. 7
	5 ナガレトビケラ	5	2. 1		1	1.3
	6 ヒラタカゲロウ	11	4. 5		4	5. 3
	7 ブユ	5	2. 1		0	0.0
	8 ヘビトンボ	7	2. 9		3	4. 0
	9 ヤマトビケラ	5	2. 1		4	5. 3
	10 イシマキガイ ※	4	1. 7		0	0.0
	11 オオシマトビケラ	6	2. 5		1	1.3
Ⅱ 少しきたない水	12 カワニナ	17	7. 0	36. 0	7	9. 3
	13 ゲンジボタル	4	1. 7		0	0.0
	14 コオニヤンマ	8	3. 3		2	2. 7
	15 コガタシマトビケラ	6	2. 5		1	1.3
	16 スジエビ	23	9. 5		16	21. 3
	17 ヒラタドロムシ	12	5. 0		0	0.0
	18 ヤマトシジミ ※	7	2. 9		0	0.0
■きたない水	19 イソコツブムシ ※	3	1. 2		0	0.0
	20 タイコウチ	3	1.2		0	0.0
	21 タニシ	12	5. 0		4	5. 3
	22 ニホンドロソコエビ 🔆	2	0.8	26. 9	0	0.0
	23 ヒル	24	9. 9		12	16.0
	24 ミズカマキリ	2	0.8		0	0.0
	25 ミズムシ	19	7. 9		3	4. 0
IV い水 大変きたな	26 アメリカザリガニ	5	2. 1		2	2.7
	27 エラミミズ	5	2. 1		0	0.0
	28 サカマキガイ	8	3. 3	12.0	0	0.0
	29 セスジユスリカ	7	2.9		1	1.3
な	30 チョウバエ	4	1.7		1	1.3

⁽注)割合については四捨五入のため、合計が100%にならないことがある。

⁽注) ※は、海水の少し混ざっている汽水域の生物

b.前年との比較

平成22年度の調査地点37地点のうち30地点が平成21年度と同じ地点での調査であった。 これらの30地点の水質階級を比較すると、同じであったところが19地点、よくなったところが7地点、悪くなったところが4地点であった。

<表-5>前年度に対する水質階級の比較

(前年度と同一地点で実施された地点の比較)

	前年度より よくなった	前年度と 変わらない	前年度より 悪くなった	全地点数
調査地点数	7	19	4	30
割合 (%)	23. 3	63. 3	13. 3	100

c.河川別調査結果の概要

表-3から考察される河川別調査結果の概要は次のとおりである。また、各調査地点における水質階級は、図-1及び表-3のとおりである。

① 与田川

与田川では、1地点で調査が行われ、"少しきたない水"と判定された。優先種はサ ワガニ、スジエビであった。

② 笠松川

笠松川では 1 地点で調査が行われ、"少しきたない水"と判定された。優先種はコオニヤンマ、スジエビであった。

③ 新川水系

新川水系では、春日川2地点、葛谷川1地点で調査が行われた。春日川で"少しきたない水"、葛谷川で"きれいな水"と判定された。優先種は、春日川でカワニナ、スジエビ、セスジュスリカ、葛谷川でカワゲラ、サワガニであった。

④ 摺鉢谷川

摺鉢谷川では2地点で調査が行われ、"きれいな水""大変きたない水"と判定された。 優先種はヘビトンボ、ヤマトビケラ、チョウバエであった。

⑤ 香東川水系

香東川水系では、香東川 7 地点で調査が行われ、"きれいな水"から"きたない水"まで判定された。優先種はウズムシ、ヒラタカゲロウ、ヤマトビゲラ、カワニナ、コガタシマトビケラ、スジエビ、ヒル、ミズムシであった。

⑥ <u>本津川</u>

本津川では4地点で調査が行われ、"きれいな水"から"きたない水"と判定された。 主な優先種はサワガニ、ヤマトビケラ、カワニナ、スジエビ、ヒル、ミズムシであった。

⑦ 綾川

綾川では5地点で調査が行われ、"きれいな水""少しきたない水"と判定された。主な優先種は、ウズムシ、カワゲラ、ヘビトンボ、コオニヤンマ、スジエビ、タニシ、ヒルであった。

⑧ 大東川

大東川では1地点で調査が行われ、"きたない水"と判定された。優先種はスジエビ、 タニシであった。

9 土器川

土器川では 2 地点で調査が行われ、"きれいな水" "少しきたない水" と判定された。優先種はウズムシ、サワガニ、ヘビトンボ、カワニナ、スジエビであった。

10 金倉川

金倉川では 1 地点で調査が行われ、"少しきたない水"と判定された。優先種はスジエビ、ヒルであった。

⑪ 弘田川

弘田川では1地点で調査が行われ、"きたない水"と判定された。優先種はタニシ、 ヒルであった。

12 高瀬川

高瀬川では3地点で調査が行われ、"きれいな水""少しきたない水"と判定された。 優先種はヒラタカゲロウ、オオシマトビケラ、カワニナ、スジエビ、ヒル、ミズムシ、 アメリカザリガニであった。

① 瀬入川

瀬入川では 1 地点で調査が行われ、"きたない水"と判定された。優先種はタニシであった。

14 財田川

財田川では4地点で調査が行われ、"きれいな水"から"きたない水"と判定された。優先種はサワガニ、カワニナ、ヒルであった。

⑤ 一の谷川

一の谷川では 1 地点で調査が行われ、"少しきたない水"と判定された。優先種はスジエビ、アメリカザリガニであった。